

Increased expression of thymic stromal lymphopoietin and its receptor in Kimura's disease

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 崎谷, 恵理 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31334

主論文の要旨

Increased expression of thymic stromal lymphopoietin and its receptor in Kimura's disease

木村病においては TSLP, TSLP 受容体の発現が亢進している

東京女子医科大学耳鼻咽喉科学教室

(主任：吉原俊雄教授)

崎谷 恵理

Jurnal for Oto-Rhino-Laryngology and Its Related Specialties
第 77 巻 44 頁-54 頁 (Published online February 11, 2015) に掲載

【要 旨】

軟部好酸球肉芽腫症（木村病）は、全身に無痛性の腫瘤を形成する疾患であり、頭頸部に多くみられる。病変局所の顕著な好酸球浸潤と、血中好酸球および IgE 高値など Th2 型炎症を特徴とするがその発症機序はいまだ不明である。

近年、thymic stromal lymphopoietin (TSLP)、IL-25、IL-33 は Th2 型炎症を誘導するサイトカインであることが明らかになっている。木村病の Th2 型炎症誘導や病態形成に重要な役割を果たしている因子を同定するために次世代シーケンサー（Life Technologies 社 SOLiD™4 システム）を用いて木村病の耳下腺部病変に発現が亢進している遺伝子を網羅的に解析した。その結果、多くの Th2 サイトカインの遺伝子が亢進していた。TSLP、IL-25、IL-33 のうち TSLP のみが発現亢進し、TSLP 受容体 (TSLPR) の発現亢進もみられた。

次に TSLP と TSLPR 蛋白を免疫組織化学的に検討すると、木村病の病変部において有意に多くの TSLP と TSLPR の陽性細胞を認めた。

さらに蛍光 2 重染色にて TSLP と TSLPR の局在する細胞を同定したところ、TSLP は主としてマクロファージに、TSLPR は肥満細胞に主に局在していた。

木村病における Th2 型炎症は、マクロファージの産生する TSLP が、TSLPR を介して肥満細胞を刺激し、誘導されている可能性が示唆された。